※事務局記入欄

No.D-11

部門名：
校内研修プログラム開発・実践部門

エントリー名：
福島県立会津学鳳高等学校　平出雅一
平成 30 年度　第５回　中堅教員研修

活動名：
授業改善に向けて
「仮想評価」を自己・他者分析に

解決すべき課題：
(1) 毎年本校で行っている、授業改善のための授業評価アンケート（生徒が教員に対して評価するもの）のよりよい活用（PDCA サイクルの C→A への部分）について共通理解を図る。
(2) 互見授業をもう少し活性化し，先生方自身の授業に活かすところまで進める。
(3) （研修でも多く取り上げられた）「主体的・対話的で深い学び」の取り組みについて，授業にどう取り入れるかを話し合い，教員間でまだまだ大きいと感じた認識の差や実践への抵抗感をなくす。
このような学校の課題を考えたうえで，これらのことを各教員が意識し，改善につなげていくための示唆を個々で１つでも得ることを目標とした。

目標・方針：
「仮想評価」という基準を設定した。参考にしたのはドラッカーの『コップの水理論』で，コップに半分の水が入っている時の捉え方の違いで，ポジティブにもネガティブにもなりうるという話である。これを元に【自分自身の生徒からの授業の評価が５０％肯定的だった】という“仮想評価”を与えられたとき，それぞれの教員がどのように捉え，自分の授業に対する振り返り，互いに評価し，さらに改善するには何が必要か・・・など，今回解決すべき課題に対して１つ１つ（メタ認知的に）振り替えることができるような構成とした。

活動内容：
＜今回は　研究協議＋校内研修　の位置づけで行った＞
① 教員は教科ごとに分かれて座る。
② ワークシート（資料１）を配付し，「仮想評価」に対する自己評価を行いつつ，これまでの自分自身の授業や構成，活動状況について振り返る。
③ 振り返った内容を付箋紙に書き，中央にまとめる（KJ 法）
④ まとまったものについて，まずはそれぞれの授業や活動を評価したうえで、他の人も評価できると感じた点（強み）と問題点や改善点（弱み）を踏まえ，どういう点を改善していけばいいかを話し合う。（資料２）
⑤ 今回出された意見や提案，評価を参考に「５０％をもっと高めるため」の授業改善に繋がるようなものをそれぞれの中に落とし込む。

活動の成果：
[1] メタ認知の観点から，教員自身から自身の強みや弱みを出したうえで，こういう授業がしたい，こういう生徒を育成したい，という言葉がより具体的に表現されたことで，さらに授業改善につなげることができた。
[2] （付箋紙で）挙がってきたものを見ると，教科は違っていても授業の取り組みなどが似ている部分もあった。こうした点から同じ教科間だけではなく，違う教科でも今回の課題に対しての話し合いを進めることができるのではないか。
[3] 目標の １ つでもある評価の活用について，数値データとしてのインパクトはあったかと思うが，C→A の活動の価値をもう少し高める（意識づける）ことができていればと思うが，これは次回の授業評価アンケートを取る際に教員に伝達していきたい。

アピールポイント（アイディアや工夫）：
○ 業務多忙の中での互見授業の代わりにもなると考える。
○『コップの水理論』はポジティブさに重点があるが，今回の「仮想評価」はネガティブな面も目を向け，ポジティブに変えていこうという考えである。
○「仮想評価」するのは，授業に限らず，例えば生徒指導や進路指導などでも対象を変えれば活かすことができるし，数値によって多様な思考が生まれる。ひいては教員の業務改善にもつなげることができる。

（資料１）ワークシート（実際はＡ４）

今回の課題：授業の「仮想評価」から自分自身の授業を振り返り、授業改善の示唆を得る

普段授業で教えている生徒たちに、
先生方自身の　授業評価のアンケート　を取ったところ
「授業内で主体的な学びができているか」の質問に対して
『概ねできている』と答えた生徒が約50%(　　)。

① 上記の(　　)に、文章が続くように感じたことを入れてください。

② なぜ上記のような評価になったのかを、先生方自身の授業に対して、先生方自身が感じる「評価できる授業の活動・内容（強み）」「改善が必要かなと感じる授業の活動・内容（弱み）」を挙げてみてください。それを付箋紙に書いて張り付けてください。

②－１ ： 同じような授業活動が挙げられた場合、それらをまとめてみてください。
（タイトルなどつけられたら、書いてください）

②－２ ： 1でまとめたいくつかが、関連性のあるものならば、←などでつなげてみてください。

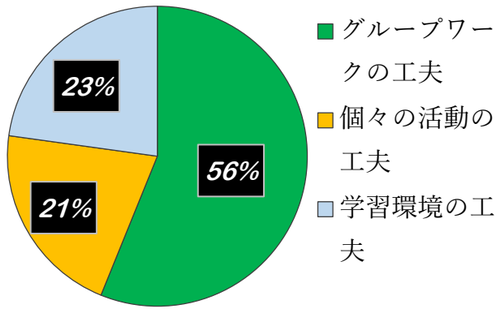
③ ①②を踏まえて、50%以上を目指すには何が必要なのかを話し合ってみてください。
その中で、先生方自身にあっていると思うその方略を1つ上げてください。

（資料２）ＫＪ法まとめ

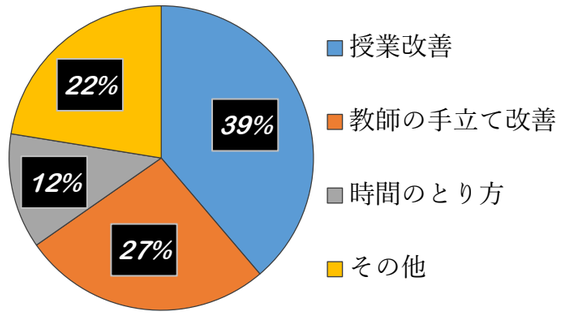
【強み】として挙がったもの

【弱み】として挙がったもの

ＡＬ型授業実践「強み」報告



改善が必要と感じる「弱み」報告



«仮想評価»　「予測」ではなく「結果」として分析！

約５０％（　もあった　）

「思いのほか高いな」
「あの活動が評価された？」
「もしかして，ちゃんと
授業評価されていない？」

約５０％（しかなかった）

「思ったより低いな」
「まだまだ生徒への認識が
足りなかったか」
「まだ改善の余地ありだ」

@どちらにしても『評価を活かす』 意識を教員各自が持てるように。
@実際に行う「授業評価アンケート」（現実評価）との比較し，さらなる分析にも活用したい。